

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 岐阜県立郡上高等学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和6年2月27日(火) 13:00～16:00
- 3 開催場所 郡上高等学校 アカデミアホール
- 4 参加者
会長 日置 保次 郡上市立中学校長会会長 郡上市立明宝中学校長 (欠席)
副会長 小林 謙一 森林文化アカデミー准教授
委員 畑佐 有美 郡上高等学校PTA (欠席)
元満 真道 ジビエ工房めいほう 工房長 (欠席)
木村 達男 弁護士
畑中 敦 一般財団法人郡上八幡産業振興公社営業企画部長
和田 望美 郡上高等学校PTA役員

学校側	狩野 靖	校長
	青木 博章	事務部長
	古田 寿朗	教頭
	岩渕 康幸	教頭
	安藤 一太	教務主任
	森下 大介	進路指導主事
	原 満	生徒指導主事
	森 秀樹	農場長
	臼田 尚之	普通科主任

5 会議の概要 (協議事項)

(1) 自己評価の説明と関係者評価

学校側の説明 教務、生徒指導、進路指導、特別活動、保健厚生、渉外活動、農業指導、寮指導について担当者が説明

委員の意見

◇教務について

- 意見1：多様なカリキュラムから選択できる事は大変素晴らしいことではあるが、進路が定まっていない生徒は選択を迷うと思うので先生の支援が大切。
- 意見2：時代の変化により求められる多様な進路選択に対応するため、様々な取り組みをされていて、成果もあるとのことで、学校の努力がなされている。
- 意見3：より複雑化する進路について、幅広い対応がますます必要になっていくと思われる。教員のみなさんの負担も心配される。
- 意見4：学力層の幅の広さへの対応について、進路選択の多様化も影響があると思われる。クラス単位で平準化することは大変だと推察するが、ICT教材など、テクノロジーも活用した生徒個々に応じた授業カリキュラムが研究されていくことを期待したい。

◇進路指導について

- 意見1：探究活動を通して、自身の興味をより深く探究することや、リアルな社会での生業を目の当たりにすることで、生まれ育ったふるさとでの自らの居場所を見出す事に繋がれば何より。地域との繋がりをうまく活用してほしい。

意見2：地域の発展には人材育成が大切。そのためにも、地域課題を考える探究活動は地域社会を担う人材育成の基礎になる活動である。今よりもっと地域の大人を活用し、つながることで地域の未来を創る人材になってほしい。

意見3：「総合的な探究の時間」は学外での発表機会に積極的に応募するなど、非常に熱心に取り組まれている。また、「観光甲子園2023」での受賞もされた。教員の指導は先進的で、高く評価されるべきものである。

意見4：普通科の「総合的な探究の時間」や、農業科の研究活動が、選抜型入試など進路選択につながっているということだった。とても素晴らしいことだと思う。同時に、「探究」は自身を知ること、また学習を通して自己成長するというキャリア教育の側面も大きく期待されているので、「入試のための活動」になりすぎないように、注意が必要だと感じる。

意見5：普通科の「総合的な探究の時間」がカリキュラムとして充実する一方、自身のやりたいことがわからない生徒にとっては、より混迷を深めることも予想される。「最後まで悩んで終わる生徒もいる」と伺った。「小さな成功体験」のためには、ひとつのアイデアとして、「総合的な探究の時間」の中で「文化祭」をプロジェクト化することを提案したい。「総合的な探究の時間」でテーマをまだ見つけられない生徒は、文化祭の運営をプロジェクトとして取り組む、ということが考えられる。運営は、全体運営のほか、展示物の制作、クラスや部活などの出展、広報、会計など、様々なプロジェクトマネジメント（PM）案件があるとよいのではないだろうか。

◇生徒指導について

意見1：家庭教育と最も関わりの深い分野とも思われますので、PTAや地域との連携も重要と思われます。方針などの情報発信も含め、家庭や地域でできることを投げかけて頂いても良い。

意見2：「無気力な生徒が多い」という課題について、生徒側の「特に理由がない」という学校側の悩みがわかった。「無気力」は社会全体の課題でもあるので、外部機関とも連携しながら、情報共有や研究いただくことを望む。

意見3：生徒は、大人がケアしてくれることに慣れており、「自分たちで人間関係の構築、修復ができない生徒もいる」「生徒の自立、自己解決能力をどうつけるか」「生徒個々のありかたもあり、学校全体の課題としにくい」という、学校側の悩みがわかった。上記と同様、社会全体の課題でもある。

意見4：一方で、探究活動では活動を通して「自己効力感」を感じた生徒もいるのでは、と思った。社会人においても「小さな成功体験」が必要とされるが、学習やプロジェクトを通して、コミュニケーションや自身で企画・実行できる機会をどのように学校内でつくれるかが今後ますます重要になるのではないかと感じた。

◇保健厚生について

意見1：コロナ禍が沈静化し、学校行事が再開したことで、清掃時間が取られて減った、とのことだった。掃除は自分たちの環境をより良くするものとして大切な活動だと思うが、少子化で生徒数が減ることも予測されるので、毎日清掃を行うところと、定期的に行うところの区分けが必要となっていくのだと思われる。その中で、「清掃＝作業」ではなく、主体性や積極性が育まれる学びのあり方を期待したい。（「学校の清掃をイノベーションする」というのも、プロジェクト化できそう）

◇特別活動について

意見1：学校生活の中で仲間との結束を図ることや、主体性を育むのに重要な取り組みだと思います。

また、思い出の大半がこれらの活動だと思いますので、生徒たちの自主的な運営ができるよう指導して頂けると良い。

意見2：コロナ禍が沈静化し、学校行事が再開し、文化祭が復活したのは喜ばしいが、教員の負担が大きかったとのことだった。これには、調整やルールづくりなどの業務が増えたことも要因である、とのことだった。

意見3：別項と関連するが、学内のルールづくりについても探究学習の良い題材になるので、ぜひ授業（総合的な探究の時間）でも取り扱ってはどうか。（参考：「[みんなのルールメイキング](#)」NPO法人カタリバ）

◇渉外活動について

意見1：PTAの在り方は全国的に見直しや改革が叫ばれています。少子化により生徒が減少する状況で支部の在り方については必要と思われませんが、面積の広い郡上においては悩ましい課題とも言えます。

「入会して良かった」「私にもできることがあれば…」と思われる様な、シンプルでわかりやすいPTAを目指していただくと良い。

意見2：PTA組織のスリム化があったとのことだった。昨今、全国でPTAの上部組織からの退会などがニュースとして取り上げられている。生徒のより良い学習環境づくりのためには今後も家庭と学校の連携は必要だと考えるが、今後少子化が進む中、適切なしくみは模索される必要があると考える。また、学校と家庭だけではな

く、それを取り巻く地域との連携も今後ますます必要だと考えられる。「地域でこどもを育てる」という地域学校連携の趣旨のもと、学校運営協議会を基盤とした地域連携による体制をつくることで、PTAとして担っていたもののスリム化をしながら、地域社会と協働によりその役割を代替していくことも検討していくのはどうだろうか。

◇農業科指導について

意見1：専門的で、レベルの高い指導をされている様子が、学習発表からもよくわかった。

意見2：カリキュラムの都合もあると思うが、消費者あつての農業と考えると、郡高マルシェは重要な存在。消費者の声を聞けるお店は必要。

意見3：課題研究のテーマは、年ごとに新しいテーマを発想するだけでなく、教員側からある程度指定して、次の学年に継承して発展させた方が、研究が深まるのではないかと。

意見4：実践的な様々な取り組みをされている。専門外の指導も勉強されているとのことで、教員方の努力と尽力は大変なものだと推察される。

意見5：発表会で、継続研究の発表内容は素晴らしいものだった。内容について専門性も高く、これまでの研究の蓄積がある継続研究だからできるものもあった。

意見6：一方で、継続研究について生徒の興味関心とのマッチングの課題があるとのことだった。しかし前述の生徒指導の課題と照らし合わせても、生徒に自身の興味関心があることは、とても良いことだと考える。IT技術の進歩や新しいマーケットなど、農業科の分野は今後ますます裾野が広がることが予想され、進路や将来としても、従来の1次産業だけではない新規就業ジャンルも予想される。教員の指導はとても大変だが、ぜひ生徒の興味関心を広げる・深めることに学校全体として取り組まれることを期待する。

意見7：普通科の「総合的な探究の時間」でも、食や自然に関するものが多く見られた。今後社会で求められる人材像は、幅広い興味関心を持ち続ける探究心を持った者である。そのためには多様な人々との対話や交流が特に有効であるため、多様な学科を持つ郡上高校は可能性に満ちた学校である。学校のカリキュラムとの兼ね合いは大変だと推察されるが、普通科と農業科の学生同士の情報交換や共同プロジェクトなど、多様なコミュニケーションを生み出す取り組みをぜひ期待したい。

◇寮指導について

意見1：入寮生の増加は、8月・3月の学休日の開寮による効果も大きいのではないかと。

意見2：寮生は、県外から入学し、部活動で利用する者が多いとのことだった。課題として、舎監や炊事員の確保が困難となっているとの報告があった。今後10年を見据えた上で、学校の生徒募集およびそのための寮のあり方を検討してもよいのではないかと考える。県外の事例ではあるが、徳島県神山町の県立高校では、県外から生徒を募集し、寮は民間運営（町出資の一般社団法人）の事例がある。また、寮の食事はすべて高校生がつくっているが、それにより自主性やコミュニケーション力が育まれているとのことだった。寮も教育機能の一環であると考え、今後の高校の寮に求められるものに新しい側面があるのではと考える。

(2) 学習成果発表会（普通科の総合的な探究及び農業三科の課題研究）

意見1：探究活動は、長期間にわたり計画的な学びが企画されており、生徒の頑張りや先生方の指導の成果だと感じた。

意見2：発表の内容から、生徒たちが悩みながらも気付きを繰り返していく過程が判り、探究活動が生徒たちを成長させているのだと感じた。

意見3：今回の発表は、地域の企業や行政関連機関などと連携しており、地域にとっても高校生の存在が地域の活性化につながると改めて感じている。地域には、もっと高校生を必要とする場所があるし、高校生の学びに協力できる大人がたくさんいるので、ぜひ活用してほしい。

6 会議のまとめ

今回の協議では、探究学習や課題研究の在り方に言及する意見があつたり、寮を活用して生徒を募集したりするなど、学校運営に関する具体的な意見があつた。

また、今後の学校運営協議会のあり方として、学校運営に寄与できる人材を協議会委員として招聘する案が提

示された。具体的には、地域と学校をつなげられる人材、農業従事者、街づくりを担う行政機関の担当者などがよいのではないかという意見があった。